

ダイレクト録音——PRSの「録音設定」

録音を開始する前に・・・

マイクで録音するときも、周囲の環境によって録音状態が変わります。

録音を始める前に、必ず録音設定を確認しましょう。

※Ⅱ.5(3)録音設定 (p15) 参照。PRSは、2007年10月のバージョンアップにより Ver. 2.04 となり、下図のように録音設定画面も変わりました。

(詳しいバージョンアップ内容については、シナノケンシ株式会社の「バージョンアップ内容のご紹介」に書かれています。「はじめてのDAISY PRS版」に添付していますので、そちらをご覧ください。)

録音を始める前に、必ずテスト録音をして、適正な音量レベルで録音しましょう。

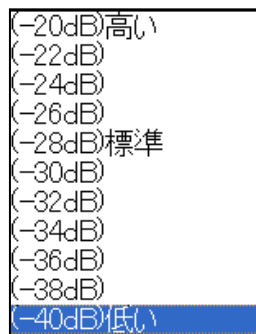
※Ⅱ.6.1 テスト録音 (p19～) 参照。バージョンアップでレベルメーターが縦に大きく見やすくなりました。音量の目安は、-10dB 前後でレベルメーターが振れる状態(-6dB～-12dB)です。

追加・訂正録音であっても、テスト録音～本録音という手順は変わりません。

「録音設定」の例：



バージョンアップにより、ノイズレベルの数値を細かく設定できるようになりました。



※ノイズレベルは、低い方に設定します。

マイク録音では、カセットテープのようなヒスノイズがありません。ノイズレベル「標準」のまま録音すると、最初の音声が無音声で始まる場合などに、音声の頭切れが起きることがあります。録音をしてみて、自分の声質・環境に合った数値を設定してください。

録音するときには・・・

マイクは単一指向性を使うこと。できるだけマイクに口を近づけ、しっかり声を出して録音すること。

マイクに入る雑音には、様々なものがあります。

部屋が狭く、壁・床・天井が固い材質の場合、反射音がマイクに入ってしまうと録音できないことがあります。PCは壁から離し、ファンの音が壁に反射して広がるのを抑える。ファンの騒音源とマイクは、可能な限り離す。厚手のカーテンなど、吸音性を高める工夫も必要です。

音だけでなく、ファンで発生した振動が伝わって雑音のもとになることもあります。マイクスタンドの下に柔らかい布を敷く、PCと同じ机に置かない等、振動を絶縁する工夫をしましょう。

また、マイクやオーディオインターフェースの接触が悪くても雑音の原因になります。